

アジア留学生への「短期特別研修事業」参加に関する5年間の報告

広島大学マスターズ会員 金田 晉

広島大学は、今活気がある。研究面でも、人材育成という面でも、国際競争力を一段とつけている。今年度はじまった「タイプA・スーパーグローバル大学創生支援」に選ばれた。全国の大学13校（旧7帝大と、私立の早・慶2大学、東京工大、東京医科歯科大、筑波大、それにわが広島大学）の一つに選ばれた。さまざまな選考指標のうちに、留学生数もその指標も加えられている。

広島大学では、世界に向けて以前から積極的に留学生募集を広報してきた。2010年度から、特にアジアの大学で日本語、日本文化を専攻し、日本の大学に留学を希望している学生を対象に、「短期特別研修事業」を開催している。2週間という短期間であるが、外国人学生向けのオープンキャンパスである。日本文化・日本事情についての基本的知識を学びながら、この大学で本格的な学修、研究したいと思うようになってほしい。そんな優秀な学生を一人でも多く増やしたいという、切なる願いが広島大学にはある。

本研修事業は、2010年度にはじまった。われわれの関与したのは、2011年2月、中国人を対象にしたクラス（冬期）からであるが、毎年成長している。2年目（2012年度）には、夏（中国）、冬（台湾）の2か国、計2クラスとなる。3年目{2013年度}からは、夏冬それぞれに中国人向けクラスと台湾人向けクラスを開設し、計4クラスを開設することになった。さらに2014年度夏には、新たに非漢字圏クラスが登場した。

本研修事業には、広大マスターズ、広大マスターズ広島の両マスターズに担当講師の派遣の要請があり、承諾した。当初は大学留学生センター長から、2013年からは国際担当の理事・副学長等から協力の依頼を受け、長年の豊かな教育経験を期待しての委嘱である旨の説明があった。

10年度（11年2月）には、広大マスターズから、井上宣邦（「暮らしの中の無線」）、有本章（「日本の大学事情」）、安藤忠男（「日本の環境問題」）、西川恭治（「日本の文化と遊び - 小倉百人一首かるた - 」）、黒川正流（「リーダーシップと職場」）の5人が計5授業時を担当した。11年度（12年2月）には、夏（中国クラス）は広大マスターズ広島にまかせ、冬（台湾クラス）を広大マスターズが引き受け、安藤忠男（「日本の環境問題」）、井上宣邦（「生活の中の通信」）が継続し、新たに渡部和彦（「日本のスポーツ・サイエンス」）（金田晉「日本

の絵巻物「鳥獣戯画絵巻」)が加わり、計 8 授業時を担当した。12 年度以降は夏、冬期とも、中国クラス、台湾クラスそれぞれ 2 クラスに増やしたため、広大マスターズと同広島は、たすき掛けで担当することにし、夏は台湾クラス、冬は中国クラスを担当することにした。12 年度は夏、冬各 1 クラス計 4 授業時。13 年度冬以降、広大マスターズが同広島の方も引き受けて、渡部(「日本の伝統スポーツと礼 - 武術から武道へ(剣道の実技あり) - 」)、金田(「日本の絵巻物「鳥獣戯画絵巻」 - 日本漫画の源流 」)の 2 人で全クラスに同じ講義題目の授業を、計 6 授業時担当することになった。さらに 14 年度夏には、「非漢字圏クラス」が新たに開講し、渡部、金田が同じ題目の講義をした。計 10 授業時である。

広島大学では、留学生が少しずつ増えているが、現在 1678 名であり、10 年後にその 2.5 倍、約 5000 人を目指している。10 年後、世界トップ 100 位以内に入ることを目標に平仄を合わせている。

(平成 27 年 4 月 5 日記)